

公益社団法人 三国・芦原・金津青年会議所 2022年度
スローガン・基本理念・基本方針・運営方針

2022年度理事長 石丸 和宏

【スローガン】

原点回帰

～シンMAK・JCの確立～

注：MAK=Mikuni.Awara.Kanazu（三国・芦原・金津）

【基本理念】

●はじめに

私は三国町で自営業の長男として生まれ、なんとなくこの会社を継がないといけないという思いで家業の勉強のために上京しました。日本の中心である東京で様々な人と出会い、多くの経験をしたのち地元に戻ってきました。18歳まで楽しく過ごした時に見えていた景色と、東京で見てきた煌びやかな景色、そして戻ってきた時にどんよりと見えた景色のギャップに、本当に帰ってきたのが正解だったのかと自問自答したのを今も覚えています。しかしこの地域には大自然を身近に感じながらの生活、青少年の心の豊かさ、穏やかな県民性、そしてこの地域を心から愛する方々との出会いが私自身を変えてゆき、帰ってきたことは間違いではないと確信しました。ですが、この地域には多くの観光資源があるにもかかわらずあまり活気がなく、人口減少に伴う担い手不足による事業承継問題など数多くの社会問題があります。そのような問題解決に持続的に取り組んでいるのが青年会議所であり、明るい未来を創造できると信じ5年前に入会することを決意し、この地域のためにできることがあるのであればと思い活動を続けてきました。

そんな中、一昨年より新型コロナウイルスを起因とするパンデミックが人類のあらゆる尊厳を脅かし、世界規模で社会的、経済的危機を引き起こしながら、依然として私たちの生活に甚大な影響を与え続けています。MAK・JCにおいても、その活動に大きな影響を受け、生命の安全と経済の再生という難しい選択を突き付けられています。そして「今までの価値観」が大きく変容し、新しい生活様式を迎えざるを得ない状況に立たされました。

予測できない変化が社会全体で起こり続け、ニューノーマル時代への対応を求められるなか、地域のリーダーを志す若き青年経済人の集まりである青年会議所が為すべきこととは何か。このような先行き不透明な時代だからこそ、今一度、青年会議所の本来の姿を明確にし、そして原点に立ち返る必要があり、理事長としてチャレンジしてみたいと考えるようになりました。「明るい豊かな社会」を実現するため、今為すべきことを自らが判断し、何のためにこの地域で活動しているのか、そして何を残せるのかを再確認し、メンバーと共に次の5年に向けたアクションプランを基に飛躍できる一年を目指します。

●原点回帰～シンMAK・JCの確立～

「新しい日本の再建は我々青年の仕事である」この言葉は、1951年、第1歩を踏み出した日本青年会議所創立当初の指針であります。「ひとづくり」「まちづくり」「教育」「国際社会」「環境」など様々な分野において、青年としての正義感、理想を追求する心、真摯な情熱という価値観のもと積極的にかかわってきました。それぞれの時代で人は変わ

り、手法や表現は異なっても、創始の「志」は脈々と受け継がれています。

本年度は、原点回帰～シンMAK・JCの確立～をスローガンとし、各自がこのまちに生まれた意味、このまちで事業を行う意味、そしてこの地域でJC運動を行う意味を今一度見直し、この混沌とした状況を打破し、大きく飛躍していくための大事な一年と捉えています。そこで、「新・真・信・進・心」の5つの“シン”をこの一年の行動の柱として、メンバー全員が原点に立ち返り、ニューノーマルな時代を生きる我々が率先して「明るい豊かな社会」の実現に向けて第一歩を踏み出していきます。

●“新”MAK・JC（新たな仲間との出会い）

青年会議所には満40歳を迎える年に定年卒業制度があります。これは一つの区切りであり、卒業後は様々なステージでリーダーとして活躍出来る存在となり、更なる飛躍を遂げる人財に育つ事が求められています。その一方で毎年必ず卒業生を輩出するという事は、卒業生数以上の新規会員の獲得をし続けて行かなければ会員数の減少に繋がるということです。数は力であり、運動発信の原動力とする為にも会員数の維持・拡大は毎年の課題であります。昨年は新型コロナウイルスの影響で一部例会や事業での手法の変化や、会議のWEB化を余儀なくされました。また運動発信の形の変化や対面での機会が大きく制限された事から新規会員を迎え入れる機会も大きく減少してしまいました。しかし、悲観的な視点だけではなく、有事の際にも常に足を止める事なく運動発信をしていたのも事実であり、その姿に感銘を受け、入会頂けたメンバーや、興味を示して頂けている方々もおられます。青年会議所が掲げる「修練・奉仕・友情」の三信条を伝える事もメンバー候補者との携わりがなければ難しく、如何にして大切な時間を我々に割いて頂けるか、共に運動する事で心情変化を与えられるかが重要になります。この課題を解決する為には、年初から受動的ではなく能動的に動き、相手を思いやる気持ちを持てるメンバー意識の醸成を図り、メンバー全員で積極的な参加を促します。そして女性メンバーの増強に力を入れ、地域のジェンダーフリーをリードしていきます。今までの経験を活かしMAK・JCのさらなる飛躍を目指すため、脈々と受け継がれてきた伝統と新しい時代を融合させ日々刻々と進化し続ける現代に併せ、誰一人取り残す事のない青年会議所の土壌をつくり出します。

●“真”MAK・JC（現役メンバーへの発展・成長の機会の提供）

JCの使命とは何でしょうか。私は、まちづくりができる人を育てることだと考えます。JCI MISSIONの“より良い変化をもたらす力を青年に与えるため、成長の機会を提供すること”においても示すとおり、多くの機会を与えて人を育て、成長した人をまちへお返しすることが私たちの果たすべき使命です。そして、JCの使命としてメンバー全員が享受できる成長の機会については、個人の機会、地域の機会、国際の機会、ビジネスの機会、これら4つの機会の提供が存在します。機会を活かせるかどうかは、個人の参画意識に依るところが大きく、参画意識を高めるために最も大事なことは、環境を変化させることです。JCは、良くも悪くも単年度制で組織構成や行う事業は毎年変化します。新型コロナウイルス感染症との共存が必要とされる中、まずはメンバーの安心・安全を第一に考え、JCの使命を果たすために、今一度原点に立ち返り、JC運動について考える機会をメンバー全員に提供します。そして基本をしっかり学び、今後の目指すべき目標を共有します。さらにLOMを総合的に強化するべく積極的に変化を生み出し、新しいことへチャレンジする環境

作りに力を注ぐことで、持続可能な明るい豊かなまちにとって必要な人財を育成し続ける組織を構築します。

●“信”MAK・JC（家族から・地域からの信頼を得る）

現代は少子高齢化や核家族化、情報化社会の急速な発展によって、人と地域のつながり、人と人との顔の見えるつながりが希薄になり、本来地域社会の中で身につけていく地域を愛する心や社会性を育みにくい状況にあります。「明るい豊かな社会」の実現には、まちの未来を担う子供たちの豊かな心と郷土愛を醸成することが必要不可欠な条件になります。今を生きる子供たちも数年後には大人となり社会進出する訳ですが、近年、将来の夢や希望、なりたい職業や働く目的が明確ではない学生を多く見かけます。その一方、青年会議所は異業種の青年経済人が集結している団体です。まずはメンバーそれぞれが自らの職業に自信と誇りをもって働いている姿を知って頂く機会を設けます。そして子供たちの夢が広がるための手伝いをするすることで、将来の夢や希望に満ち溢れた未来へ繋がると考えます。さらに、ふるさとの魅力を体感してもらい、将来、このまちを誇れる大人へと成長できる機会を設けます。

また「明るい豊かな社会」の実現を目指し運動を展開している我々MAK・JCですが、時折「JC運動によって会社での自分の時間がうまく作れない」「家庭がうまくいかない」などの話を聞くことがあります。社会の最小単位は家族であり、家族や会社の犠牲の上に「明るい豊かな社会」は成り立ちません。まずは家族からの理解と信頼を得るために、おもてなしの場を設け、今後メンバーが活躍しやすい環境を整備します。そして、すべてのメンバーが「家族・会社・地域の為に」と誇りをもって運動できる組織への変革を目指すことで、我々と一緒に運動してもらえる市民サポーターを獲得します。

●“進”MAK・JC（柔軟に進化し続ける）

持続可能な社会づくりが大きな世界トレンドとなる中、日本人が古くから持っていた「三方良し」の考え方へと立ち返り、「商売において売り手と買い手が満足するのは当然のこと、社会に貢献できてこそよい商売」という経済へと転換し、SDGsを軸とした新付加価値化を進める必要があります。対外や対内を問わず、信用の置ける組織基盤を確立することができれば、我々のまちにとって、より良い成果を生む運動を展開し続けることが可能となります。我々が展開する運動は、価値と効果を最大限に高めるために、総会、理事会、委員会などの各会議を開催し、多くの人財に依る建設的な議論と活発な意見交換を積み重ねることにより構築しています。人と人との緊密なコミュニケーションを重視してきた活動に制限がかかる状況下においても、従来までの運動の構築手法を大事にしながら柔軟かつ効果的な会議システムを活用し、運動の効果を高められる環境を整えていきます。また、どんなに良い運動を行ったとしても、社会的な認知度が高まらなければ、運動の価値はなくなってしまいます。我々の運動による効果を一人でも多くの市民へ届けるために、広報の重要性を認識し、的確かつタイムリーに情報を発信することで、運動の効果を最大限に高め、継続性のある広報を行っていきます。さらに、万一の災害時において、迅速かつ的確な対応を行えるように準備を進めるとともに、他地域の災害時には、速やかに本会と連携し、支援を行える体制を確立します。常日頃から何事においても準備を重ね、即座に行動へと移すことができる体制を確立することで、社会的に信用の置ける存在として、市民の共感に溢れる運動を展開する強い組織へと進化します。

●“心”MAK・JC（愛のある行動）

現代社会において IT の飛躍的な発達により電子機器を使い SNS 等で相手と意思の疎通を簡単に図ることができるようになりました。それにより出会ったことのない人、出会ったばかりの人とも積極的にコミュニケーションを取ることができるようになり、多様な価値観や要望に合わせたコミュニティを形成することができるようになりました。しかしその反面、身近な家族、近所間、地域の人達と話す機会が減り、人として本来の温かみを持ってなくなってきているように思います。家族や友達にさえ伝えたい思いを文字で簡素化して伝えることで言葉に重みがなくなり、相手の立場を考えずに傷つけてしまう言葉を伝えてはいないでしょうか。また、地域の集まりにおいても欠席という文字だけを送り、会う機会を減らし、会話型のコミュニケーションが減っていることも身近な問題と感じています。話す機会、会う機会を増やすことで誰かの為に動き出すきっかけとなり、家族、地域において一人でも多く、誰かの為に動ける人が増えるのではないかと思います。他人を慈しみ愛する心を持ち、他人の事を思いやり、他人の為に行動できること、即ち愛心を持つ「ヒト」を増やし、思いやりの心に満ち溢れた地域を創造できる組織を構築します。

●結びに

新型コロナウイルスとの共存、そして新しい価値観との共生が予想される中、我々 MAK・JCは今後もこの地域に必要とされる団体であり続けるべく、新たな仲間とともに、更なる一步を踏み出していかなくてはなりません。また心からこのまちの未来を想い、一人ひとりの愛ある運動による発信を全力で行い、次の世代へと足跡を残していくことが、我々 MAK・JCの真の使命であり、このまちの明るい未来に繋がっていきます。各人の成長はもとより、まずは一度原点に立ち返り、何のためにここに生まれ育ち、何のためにこの地域で運動しているのかを再確認し、家族、そしてこの地域からの信用と信頼に応えられる強い組織に進化し続けられるよう、皆で一丸となり、この難局を突破し、ニューノーマルな社会に適応したシンMAK・JCの確立を目指しましょう！

【基本方針】

- ・ MAK・JC 50周年アクションプランに基づく行動の履行
- ・ 若い世代の会員増強
- ・ JC運動の本質を理解したまちづくりができる人材の開発
- ・ 家族・地域から信頼される組織の構築
- ・ 未来を担う子供たちの豊かな心と郷土愛の醸成
- ・ 身近な人々に必要とされる組織の構築
- ・ メンバー全員が活躍できるJCを構築するための環境の整備

【運営方針】

- ・ メンバー全員による積極的な会員拡大の推進
- ・ 拡大実施情報の共有
- ・ 拡大ツールの企画、開発
- ・ メンバーの成長につながる人格形成の実施
- ・ 青少年に豊かな心と郷土愛を育んでもらう育成事業の実施
- ・ 市民サポーターと信頼を深める事業の実施

- ・ 2022年度MAK・JC運動結果、検証、報告会の実施
- ・ 新年会の実施
- ・ 理事会、総会議事録の作成
- ・ 総会、例会、理事会の設営
- ・ 総会、例会、理事会の全員出席を目指した運営
- ・ HP、SNSの更新管理と発信
- ・ 公益会計基準に則った財務管理
- ・ 近隣LOMとの合同例会の開催
- ・ 福井ブロック協議会への協力ならびに支援
- ・ 日本JCが開催する事業の積極的な参加